



No.126
2026.1.28

SEA NEWS



- ①…三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース、見事な逆転勝利で6大会ぶりの優勝
～高円宮妃杯 JFA 第30回全日本U-15女子サッカー選手権大会
- ②…【連載】レフェリー育成の現場から～「SFAレフェリートレーニング講習会」 「高校生たちの4級取得」
- ③…フェアプレー・規律委員会より 登録チームすべてに「クラブ・ウェルフェアオフィサー」配置を目指して
- ④…大会記録●県内大会 1種社会人・2種・3種
- ⑤…大会記録●県内大会 3種・中体連・クラブ
- ⑥…大会記録●県内大会 3種クラブ・4種・女子
- ⑦…大会記録●県内大会 女子・シニア
- ⑧…大会記録●県内大会 シニア・フットサル ●県外大会 1種・自治体
- ⑨…大会記録●県外大会 大学・2種
- ⑩…大会記録●県外大会 3種・4種・女子
- ⑪…大会記録●県外大会 女子・シニア
- ⑫…大会記録●県外大会 シニア・フットサル インフォメーション 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 シャトー雁ヶ音204 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース、見事な逆転勝利で6大会ぶりの優勝

～高円宮妃杯 JFA 第30回全日本 U-15 女子サッカー選手権大会

12月27日、味の素フィールド西が丘にて「高円宮妃杯 JFA 第30回全日本U-15女子サッカー選手権大会」の決勝が行われました。昨年準優勝に終わった三菱重工浦和レッズレディースジュニアユースは INAC 神戸テゾーロと対戦し、2-1で勝利して6大会ぶりの優勝を果たしました。

前半は INAC 神戸テゾーロに主導権を握られて、21分に失点してしまいましたが、追加点は許さずに0-1で前半を折り返しました。後半に入ると立ち上がりから攻勢に出ると、42分にMF 増田彩衣里選手がゴールを決めて同点。その後は大きな展開とダイレクトパスを巧みに織り交ぜながらほぼ一方的な展開にすると、73分、FW 徳生花音選手が待望のゴールを決めて逆転しました。

三菱重工浦和レッズレディースジュニアユースの選手、スタッフの皆さん、おめでとうございます。さらなる飛躍を期待しています。



昌平高校、3回戦を突破できず

～第104回全国高校サッカー選手権大会

12月28日に「第104回全国高校サッカー選手権大会」が開幕し、埼玉県代表の昌平高校は2回戦から登場し、高知高校に4-0と快勝。続く3回戦、帝京長岡高校(新潟県代表)と対戦しました。東西違えども、どちらも「高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ」に所属するチームの対戦とあって注目されましたが、15分に失点するとそのまま試合は動かず、0-1のまま終了。残念ながら、ベスト16に進むことが叶いませんでした。しかし、U-18日本代表に選ばれたMF長 璃喜選手(→J1 川崎)、MF山口豪太選手(→J2 湘南)など優秀な選手が多く育ってきています。それぞれ、次のステージでの活躍を楽しみにしています。



【連載】レフェリー育成の現場から①

「SFA レフェリートレーニング講習会」・「高校生たちの4級取得」

9月26日、19時過ぎのSFAフットボールセンター。前日は北からの強風に悩まされたが、この日の夜は気候的には少し穏やかだった。そんな中で、審判委員会強化部長の佐野勲さん（いずみ高校）をはじめとする委員会のメンバーが慌ただしく準備を始めていた。そして防寒を意識したウエア姿の人たちが一人、二人と集まり、3回目となる「SFA レフェリートレーニング講習会」の開始を待っていた。

「一緒にトレーニングしませんか？」

もともと佐野さんの審判委員会での仕事は、県内から可能性のある若いレフェリーを関東協会に推挙することだ。具体的には3級審判としてアクティブに活動している方々を、さらに上級である2級審判に推薦すること。単純ではあるが、そのためには3級で、かつ審判活動を広げていきたいというレフェリーを育成しなければならない。しかしながら現状、関東協会主催の大会、リーグ戦の規模が拡大していくものの、担当できるレフェリーが足りているとは言い難い。世界のサッカーが日々進歩する中で、プレーヤーと同様に走ることができる若いタフなレフェリーの出現が求められている状況でもある。

若い年代からレフェリーを体験することはもちろんのこと、ある一定のレベル以上でプレーしてきた人たちが近未来的にレフェリーを志してくれることが期待されている。そのような若い人材が多く出てくることこそ、日本のレフェリーのレベルはもとより、日本のサッカーそのもののレベルを上げることになると考えられている。

それ以上に埼玉県内において問題なのが、積極的に審判活動を行ってくれる“アクティブレフェリー”の絶対数が足りないということだ。毎週末、全県的に試合が行われている中、当然ながら試合数以上のレフェリーが必要。中には同会場で複数試合を担当し、さらに会場を「はしご」するレフェリーもいるのが実状だ。この不足の原因



佐野 勲さん

は、我が県においてサッカーが盛んであるという自慢すべき単純な理由が第一に挙げられるが、やはり審判資格を持っていてもやってくれる人がいないというのが問題なのだ。「自信がない」「不安だ」「種別が違うとスピードが違う」……断る理由は様々だが、そもそも審判活動に魅力を感じなければ、上級を目指すという人材は出てこないのではないか。

前置きが長くなったが、そこで「強化部」として今年度から取り組んだのが「SFA レフェリートレーニング講習会」。対象は有資格、無資格は問わないという斬新な試みであり、とにかく活動できる場を設定して、「一緒にトレーニングをしませんか？」というものだった。

企画した佐野さんが説明してくれた。

「試験的ではありますが、審判に興味・関心がある人を増やしたいというのが、一番の目的でした。無資格の人でもいい。これをきっかけにして、4級審判を取得してくれればいい。また有資格の方でも、取得したものの活用できていない方々も多いでしょう。『自チームのために取得したけれど』という方には、近くにレフェリー仲間がなかなかいっしょらないと思います。そういう人たちにとっては、交流の場になり、審判活動を始める第一歩になればと考えました。それだけに、参加者にはお金がかからないような形でできないかと考えて『まずは』と、こういう形にしてみました」

継続、アピール、技術とのコラボ

開催されたのは、5月9日、7月11日とこの日の9月26日といずれも金曜日の夜の3回。19時30分から90分、SFAフットボールセンターで行われた。

「1回目は、初回ということもあり、レクリエーション的なトレーニングを入れて身体を動かすことを目的としました。2回目は1回目のものにプラスして、『オフサイドを見極めよう』というテーマで開催しました。例えば、FWとDFが入れ替わりになるようなシチュエーションを設定して、目の前のデモンストレーションを見て、同時に撮影もし、さらに映像を確認するという中で学びました。参加者の皆さんには、アシスタントレフェリーの後ろにいていただき、見るポイントを確認してもらいました」（佐野さん）

ただトレーニングするのではなく、実践時に「使える」技術を身につけてほしいという願いもある。特に3回目は最新のトピックでもある「GKの8秒ルール」への対応方法が紹介された。



「塚田さん(智宏氏・上尾高校)がGK役となり、デモンストレーションをしながら解説してくれました。どこからカウントを始めればいいのか?などを紹介してくれたので、非常にわかりやすかったと思います」(佐野さん)

どの回も参加者は30名程度。特に3回目は女性レフェリーの方も加わるなど、広がりを見せたという。

「1、2回目はほぼ知っている顔ぶれでしたが(苦笑)、3回目は普段お見かけない方もいらしてくださいました。

実際に中村太さん(JリーグPR)や塚田さん(Jリーグ副審担当)という、Jリーグを担当している方々と一緒にトレーニングできるというのをピーアールポイントにしていたのですが、どうだったでしょうか。1回目は、村上さん(仲次氏・元JリーグPR)も参加されて盛り上がりました(※Jリーグ公式チャンネル/「知られざる審判の日常と試合の舞台裏?? Jリーグ プロフェッショナルレフェリー・中村太に密着」の収録に合わせて)。

3回目、中村さんは担当試合の前日ということもあり欠席されましたが、3級審判の皆さんに一斉メールを送るなどして、協力してもらいました。この日は参加者が一番多くて、かつ女性の参加はうれしかったですね」(佐野さん)

手ごたえは感じている。しかし、佐野さんも含めて主催者側としては、埼玉の審判登録者数を考えると、もう少し参加者が増えてほしいというのが本音のようだ。そのためには、やはり継続とアピール、そしていろいろな人を巻き込むことが必要と考えている。

「開催してよかったと思っていますので、来年度も継続します。4回はやりたいと思っていますし、フットボールセンター以外でも開催できればと計画しています。

改めて思うのは、審判をやりたい人、審判のことを知りたいという人にとっては、これまでにない機会だということです。県全体の強化を目指した事業でしたが、やってみたところ、これは普及につながると強く認識しました。私たちとしては、こういう事業をやっていることを、もっと情報発信していかなければいけませんね。

可能であれば、技術委員会ともコラボレーションして、関わっている皆さんのよりよいサッカー理解につなげていければと思っています」(佐野さん)

技術と審判の協調は長年のテーマ。告知も含めて、広報委員会としてしっかりサポートしていきたいと考えている。

「選手のために何かできないかな?」

実のところ、各方面で確実に審判活動への理解の拡大は広がっている。

さいたま新都心駅から徒歩5分程度にある「埼玉県立大宮高校」。県内有数の進学校であるサッカー部で、女子マネージャーがまとめて4級審判の資格を取得したという。顧問は、Jリーグで長く副審を担当していた安元利充さんだ。

取得のきっかけについて、奥村双葉さん(3年生)、石野理世さん(2年生)、伊藤百音さん(2年生)のそれぞれに話を聞いた。

「昨年、先輩方が引退した後、マネージャーのみんなと『選手のために何かできないかな?』という話をしました。サッカー部は、他の部活と比べて部員が少ないんです。ですから、練習試合や紅白戦で『だれか副審を』と声をかけても、みんなゲームで出ているし、また疲れているし……負担が大きかったんです。そこで『私たちマネージャーが副審をやれるといいね』という話になったんです。(奥村さん)

「あのときは『どうしようか?』ではなく『何ができるんだろう?』とみんな、積極的にでしたね。その中で、私たちはみんな、そもそもサッカーが好きということもあり『副審がいいんじゃない?』という話になりました。部の一員として、素敵な考えだと思いました」(石野さん)

「いざ資格を取ろうと思ったら、不安でしたね。でも、部員のみんなから『審判資格を取っていいね』『ありがとう』という声をかけて

もらったので、勇気を持って取りに行きました」(伊藤さん)

取得したのは、2024年の秋。高体連の一斉講習ではなく、審判委員会主催の所沢会場で一般の人たちと一緒に受講した。

さて、取得後の日々はどうなのだろうか。

「実際、副審をやってみると、毎日自分の体力の無さを知らされました(苦笑)。まずは、とにかくボールに追いつけるかどうかからでした。戻りオフサイドなんて、見極めるのが難しいですね。年明けくらいから、ボールに追いつけるようになり、そこから改めて『サッカーって、面白いな』と思いました。

これまで選手のみんなとは、選手とマネージャーって感じで、ちょっと距離があったんですね。それが副審をやるようになったら、水の用意などほかの仕事の部分で、みんなと一緒に手伝ってくれるようになりました。そういう雰囲気を楽しんでいます」(奥村さん)

「サッカーの試合はよく観るほうなのですが、実際に審判となると不安でした。でも、実際にやってみると、違う、新しい景色が見えてきました。それまではボールとその周りの選手しか観ていませんでしたが、副審をすることで『今のはオフサイドじゃないかな?』とか、広がりましたね。そこで『サッカーは面白いな』って、私も改めて思いました。(石野さん)

「私は責任の重さを感じています。改めてルールを知ることはできましたが、解答用紙を書くのとは違いますね。これまで『なんとなく』の知識でしたが、オフサイドもいろいろあります。試合を観ていても、審判を気にするようになり、よりサッカーを楽しめるようになりました。

せっかく取りましたので、選手のみんなが試合に専念できるよう、磨きをかけていきたいです」(伊藤さん)

試合を観る上で、視野が広がったことは素晴らしいこと。また、彼女たちの成果は、県内でがんばっている「女子マネ」の皆さんの励みになるのではないかな。

「ぜひ、マネージャーでも取ってほしいですね。サッカーとの距離が縮まるといいますし、見方が変わります」(奥村さん)

「ジャッジに不安で……あとで選手に『さっきの、合ってた?』と聞くこともあります。でも、『(審判を)やってくれることがうれしい』『自信をもってほしい』と言われて、励みになっています。ぜひ勧めたいですね」(石野さん)

「1年生に『(審判のこと)教えて』とお願ひしたら、丁寧に教えてくれました。また『ナイスジャッジでした』と言われました。そういう会話から、選手との距離が縮まりましたね。取ってよかったです」(伊藤百音さん/2年生)

審判資格を取ったことで、サッカーの理解も増し、選手たちとの距離も縮まりと願ったり叶ったりのようだ。最後に当然、安元さんからの影響はあるだろうと思い、彼女たちに「安元先生がJリーグで審判をしていたのを知っていましたか?」と確認してみた。

「えっ」と驚いたのは奥村さんだけ。石野さんと伊藤さんは知っていた。石野さんは往時の動画を見つけたという話になり、伊藤さんは入学前に「SFA NEWS」に掲載した1級退任時の記事を読んでいたという。横で話を聞いていた安元さんは驚くと同時に、少し口元を緩めた。

「これまでたくさんの女子マネージャーに支えてきてもらいましたが、今回初めてライセンスを取得してくれました。

確かに私も、選手たちが自分たちのゲームに出た後、クタクタになりながら次の試合の副審をしているのを何度も見てきました。だから、こういうサポートを考えてくれたことに感謝です。また、実際に選手たちは彼女たちに感謝しています。

いつになるかわかりませんが、彼女たちが公式戦まで担当できるようになったら、見える世界がさらに変わってくるでしょうね。そして彼女たちにとって取得したことがゴールではなく、広がっていくきっかけになってくれれば幸いです。これからの彼女たちを応援しています」(安元さん)



大宮高校／(前列左から) 安元利充さん、奥村双葉さん、(後列左から) 伊藤百音さん、石野理世さん

「もっとサッカーを深く知りたい」

「埼玉県立岩槻高校」は、首都圏の大動脈である国道16号線に面しているが、グラウンドから四方を見渡すと、遮るものはなく関東平野の広さを実感することができる。サッカー部の顧問である金子彰さんは大学卒業後、教員の傍ら「さいたまSC」でもプレーしていたが、今では県高体連審判部に所属し、主要な試合を担当している。

冨(あくつ) 優菜さんは、3年生唯一のマネージャーだ。「小学生の頃にはチームに入ってサッカーをしていましたが、中学校では離れていました。でも、サッカーの試合を観るのは、ずっと好きでした。前回のワールドカップを観て、改めてサッカーに関わりたいたいと思い、高校でマネージャーになりました。

2年生の夏くらいから『もっとサッカーを深く知りたい』と思い、本を買ったりして勉強する中、審判の資格を取りたいと考えていました。冬になって、金子先生に相談したところ「取ってみれば?」と言ってもらい、取得しました。今は練習試合で副審をさせていただくくらいです」

資格を取る前と取った後で、何か変化はあったらどうか。「改めて審判ってすごいなと思っています。これまで試合を観ていても選手ばかり見ていましたが、今では審判の動きもしっかり見えています。見ていて思うのは、皆さんの視野の広さ。あんなところも、こんなところも……おかげで、私自身の視野が広がっています。

資格を取ったからでしょうか、これまでの私はマネージャーの仕事だけを『こなす』感じで過ごしていたように思います。それが審判資格を取ったことによって、サッカーの難しさを知り、もっとサッカーがわかるようになりましたし、楽しくなりました」(冨さん)

さて、これから審判活動を続けますか? 「大学への進学が決まりましたが、卒業後はサッカーに関わる仕事に就きたいと思っています。審判ですか? どちらかという、現場に出て選手たちをサポートしたいですね」(冨さん)

大学でもサッカー部でマネージャーを続けたいとのこと。ぜひサッカー理解を深めて、プレーヤーたちからの信頼を得てほしいものだ。そのためには審判活動も続けるのはどうだろうか。

「今まで以上にサッカーが楽しく、素晴らしい」

さて、岩槻高校にはもう一人、注目したい「レフェリー」がいる。那須南斗さん。彼も3年生で間もなく卒業となる。ただ、これまでサッカー部に所属していたものの、選手登録は叶わなかった。というのは、「100万人に一人」という難病「先天性筋線維タイプ不均等症」となり、残念ながらプレーヤーとしての夢は断たれてしまったのだ。

「5歳と10歳のときに足を手術しましたが、サッカーは続けました。でも、14歳のときに背骨の側弯症の手術を行い、その中二の夏を最後に、プレーできなくなりました。あれ以来ずっと『ピッチに立ち

たい』『ピッチに戻りたい』と思っていましたが、この6月にU16リーグの主審を担当しました。そうです、ピッチに戻ってきました。感想ですか? やはり見える景色が違いましたね。とにかくうれしかったです」

充実感に満ちた笑顔が弾ける。

入部してからは、金子監督をサポートする形で学生コーチとして参加していた。これまで戦術を考えたり、メンバーを決めたり、またウォーミングアップも担当してきた。

「一緒にサッカーはできませんが『部員を支えたい』という思いに、金子先生から『これまでと違うサッカーとの関わり方をすれば?』と、審判をするきっかけをもらいました。

一度はサッカーを辞めようと思いましたが、でも、どうしても好きで、辞めることができませんでした。プレーヤーではないサッカー人生となりましたが、審判を始めたことで今まで以上にサッカーが楽しく、素晴らしいと思っています。

これまで5試合担当しましたが、試合に出た1年生たちから試合後に『ありがとうございます』と言われたのは、うれしかったです」(那須くん)

那須くんの夢は、サッカークラブの経営。自分で指導して、さらに審判もできればと考えている。そのためにも、進学先の大学でもサッカー部に入り、サッカーに関わり続けることにした。

二人に助言を続けてきた金子さんはこう語る。「二人とも、これまで自分自身でそれぞれの可能性を広げてきました。ぜひこの先も審判資格を生かして、その可能性をもっと広げてほしい。続けて大学サッカーに関わっていくと聞いています。自分なりに楽しんでほしいですね。

ホント、二人には頼ってばかりでした。これからも顔を出して私のサポートをしてほしいです(笑)」



岩槻高校／(左から) 那須南斗さん、冨(あくつ) 優菜さん

高校生たちの取り組みを見聞きする中で改めて思ったのは、サッカーに関わっている誰もが4級審判の資格を取ってくると、埼玉のサッカーは変わるのではないかということ。その中から一人でも多く「アクティブレフェリー」として活動していただければ、状況が変わるのではないか、と。

そして、このような「土壌」こそが、審判への理解はもちろん、サッカーそのものへのさらなる理解、合わせて「リスペクト」の精神を醸成してくれるのではないだろうか。まだまだ県内からJFAの「暴力相談窓口」への問い合わせが多い状況が続いている。今回のような「SFAレフェリートレーニング講習会」やマネージャーたちの4級取得を通じて「土壌」が広がり、各チームの指導者へもより一層浸透していくことを期待したい。

次回はユース審判の育成状況にスポットを当ててみたい。(広報・技術・女子委員／荒川裕治)

フェアプレー・規律委員会より

登録チームすべてに「クラブ・ウェルフェアオフィサー」配置を目指して Vol.3

フェアプレー・規律委員会では全登録チームに「クラブ・ウェルフェアオフィサー」を配置することを目指しています。JFA 及び SFA への「暴言・暴力」などのハラスメントの相談・通報は前年度とほぼ変わっていません。皆さんの努力で、埼玉県のサッカー環境がよりよいものにしていただきたいと思います。ぜひ、クラブ・ウェルフェアオフィサー講習会への受講をお願いいたします。前号に続き、取得者の皆さんの氏名・チーム名を掲載させていただき、理解の輪を広げていきたいと考えています。

なお、講習会開催に関しては、各カテゴリーの担当者にお尋ねください。

※クラブ・ウェルフェアオフィサーとは…… 所属クラブにおいてリスペクト・フェアプレーを推進するリーダー

2025年クラブ・ウェルフェアオフィサー取得者一覧

※ 12/31 現在、774 名取得

宮原 裕美、齋藤 由佳、藤原 章弘 (以上、FC 影森)、飯塚 岳 (J.F.C.尾田時スポーツ少年団)、高橋 麻美、八木 里咲、寿台 華子、阿左 美尚紀 (以上、久那スポーツ少年団)、中島 正人 (高篠サッカースポーツ少年団)、浅見 和史 (花の木サッカースポーツ少年団)、豊田 さゆり (秩父南サッカー少年団)、加藤 典彦、半藤 美香 (共に ONE.S.G)、萩原 正義 (大增サンライズフットボールクラブ)、村上 岳 (エースサッカークラブ)、羽田 悠一 (豊春サッカークラブ)、関根 浩一 (FC バンビーノ)、濱田 一樹 (牛島フットボールクラブ)、山口 紘輝 (小淵サッカースポーツ少年団)、宮倉 純樹 (FC KASUKABE)、五十嵐 雄人 (KAYZER FOOTBALL CLUB)、柴谷 優汰 (大畑サッカー少年団)、川原 隆博 (春日部幸松ジュニアフットボールクラブ)、高橋 洋行 (FC.フレックス)、小林 伸明 (FC ベルウェーブスポーツ少年団)、小川 哲夫 (武里サッカークラブ)、中川 英洋 (庄和ファイターズサッカースポーツ少年団)、関根 浩樹 (豊野 F フットボールクラブスポーツ少年団)、林田 真也 (上沖サッカークラブ)、浅井 光利 (栄町キッカーズ)、川崎 裕賀 (FC Gois YANAKA)、三富 貴徳 (FC VELSA)、建部 秀幸 (FC LIEN)、櫛田 敏夫 (蓮田キッカーズ)、北村 清男 (ジョイフルフットボールクラブ)、小林 悟 (FC 白岡南)、平野 勝己、岩上 憲義 (共に白岡総合第一スポーツ少年団)、竹田 宏治 (埼玉オーステン SC ジュニア)、浜田 浩一郎 (篠津小総合クラブ FC アローズ)、川口 将馬 (Ala Football Academy)、嶋田 大輔 (surpriz Jr)、島村 遼司 (FC 宮代東)、中村 佐登志 (百間サッカースポーツ少年団)、開 和久 (杉戸倉松サッカースポーツ少年団)、石井 雅典、渡辺 直樹 (共に杉戸西サッカースポーツ少年団)、高橋 亮 (IFC / LIVENT)、阿部 貴之 (杉戸ゼウス FC)、池田 浩士 (SUGITO UNITED FOOTBALL CLUB)、渡辺 明、栗飯原 和彦 (幸手ユナイテッド FC)、玉川 寛、東 亜紀夫、松本 厚 (以上、上高野 FC)、菊地 幸夫 (幸手さくらサッカークラブ)、白石 茂 (栗橋ジュニアサッカークラブ)、高橋 徹、森 大輔 (共に久喜キッカーズ)、加藤 雅彦 (久喜本町クラブ)、阿久津 裕二 (久喜東 FC)、市村 哲弥 (あけぼの FC)、海老島 正純、小野 務 (共に砂原サッカースポーツ少年団)、市川 俊太、栗野 活夫 (共に東鷲宮 FC)、岩谷 靖、高橋 雄二 (共に ForWarD FC)、日高 貴裕 (ファルカオ FC 久喜)、小西 輝明 (加須ユナイテッド FC)、福島 良明、駒宮 良治、吉澤 照夫 (以上、KZ ファイブ)、大山 将司 (AzuLente KAZO U-12)、野本 剛司、矢島 克浩 (共に礼羽サッカースポーツ少年団)、高橋 英之 (Saitama east SV U-12)、須貝 将弘 (REDONDO FC)、西田 徳弘 (行田泉

サッカースポーツ少年団)、額賀 洋一 (行田 SC)、大谷 和也 (中央キャッスルキッズフットボールクラブ)、横田 義彦、里見 昭政 (共に行田サウスフェニックスサッカースポーツ少年団)、東原 茂充、松田 実 (共に東部地区役員)、牛久保 真人、高杉 渉 (共に FC-COOL)、永井 良文、豊嶋 和也 (共に FC アルベスタ小川スポーツ少年団)、下遠 勝、関口 久栄、宮島 道夫、駒形 一郎、三谷 俊夫、小野寺 大海、西郷 聡、内海 智史、飯塚 修 (以上、FC なめがわサッカースポーツ少年団)、川久保 悠、鈴木 徳将 (共に INDEPENDIENTE JAPANHATOYAMA)、山岸 聖一郎、栗原 悠輔 (共に JFC ときがわ)、高橋 慈英 (ネクサス SV)、三枝 忠夫 (亀井サッカースポーツ少年団)、石川 和宏、武部 亮、綿貫 徹 (以上、吉見 SMC フットボールクラブ)、岩崎 充明 (吉見 T フレックス F.C.), 伊吹 良美、磯部 理香、荻田 恵子、宮内 大輔、後藤 秀平、黒沼 成吉、小畑 くるみ、猪鼻 一美、平井 智子、望月 清、矢部 勝宏、友光 愛、利根川 健一 (以上、川島サッカースポーツ少年団)、堀越 和行 (唐子サッカースポーツ少年団)、藤村 謙、福島孝英 (共に東松山ペレニアフットボールクラブジュニア)、吉村 淳史、金原 悠樹、金子 広介、高梨 智、鹿又一洋、小高 敦基、小川 茂、小倉 晴香、小峰 昭彦、松本 信昭、新井 健悟、新井 拓人、村田 翔、長崎 一也、内田 翔大、萩原 勇也、鈴木 祥大、齋藤 裕太 (以上、東松山東フットボールクラブ)、上 智哉、大塚 真太郎、高橋 宏徳、嶋 大悟、新田 勝広、清水 旭、長澤 学 (以上、東松山北サッカースポーツ少年団)、紺野 隆志、畝迫 昌和 (嵐山町サッカースポーツ少年団)、河内 佑弥 (CF ソルダード)、田仲 洋介 (エルフシュリット AS)、清水 慎太郎 (FC REGAME)、芦川 義弘 (桜サッカースポーツ少年団)、成本 直寛 (ロードガーデン FC)、谷口 弘晃 (越谷フットボールクラブ)、服部 良太 (松伏スプロウト SC スポーツ少年団)、藤原 誠 (草加東サッカースポーツ少年団)、石倉 明 (FC ジェンシャン草加)、和田 孝二 (吉川武蔵野サッカースポーツ少年団)、大口 柚人 (三郷 Jr Youth U-12 C.F.PASION)、岩上 拓人 (越谷ウイン SC)、長谷川 健太 (草加住吉サッカークラブ)、松崎 英司 (FC 三輪野江ヴィクトリーズスポーツ少年団)、渡辺 泰勝 (瀬崎サッカースポーツ少年団)、塩崎 誠 (吉川ホワイトシャークサッカースポーツ少年団)、夢川 崇好 (大袋フットボールクラブ)、鳥飼 武志 (フットボールクラブ シセーザ)、土持 良磨 (草加遊馬キッカーズ)、小泉 慎 (FOOTBALLCLUB 蒲生東スポーツ少年団)、小林 弘幸 (越谷サンシンサッカースポーツ少年団)、石渡 英之 (越谷桜南サッカースポーツ少年団)、山川 庄平 (西町フットボールクラブ)、矢野 賢二 (桜井サッカースポーツ少年団)、細井 一誠 (大相模サッカースポーツ少年団)、北村 謙太 (FC ガナドール吉川)、林 善一 (松伏 FC スポーツ少年団)、佐藤 倫那 (越谷南フットボールクラブ)、鈴木 裕之 (松原フットボールクラブ)、今井 伸和 (FC ブラックジャガーススポーツ少年団)、中里 幸生 (八条フットボールクラブ)、横川 守 (高砂イレブンフットボールクラブ)、廣岡 右字 (早稲田つつみ FC スポーツ少年団)、白川 公二 (FC ひまわり)、雑賀 隆志 (戸ヶ崎イレブンスポーツ少年団)、岡田 正二 (大沢北 FOOTBALL CLUB)、梅田 洋一 (ミトス吉川サッカー少年団)、佐々木 昌一 (三郷フットボールクラブ Jr.)、岡島 敦 (草加ジュニアフットボールクラブプライマリー)、菊地 明 (FC 八潮メッツジュニア)

大会記録 ● 県内大会

1種・社会人

2024年度埼玉県社会人サッカーリーグ1部(後期)

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	Tokyo International University	15	5	0	0	9
2	KONOSU CITY FC	10	3	1	1	9
3	アヴェントゥーラ川口	10	3	1	1	7
4	FCカラスト埼玉 南西	6	2	0	3	-7
5	大成シティフットボールクラブ坂戸	3	1	0	4	-8
6	さいたまSC	0	0	0	5	-10

2種

高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ2025埼玉S1リーグ

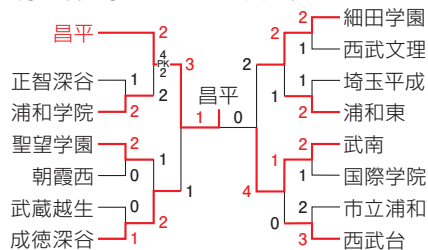
順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	成徳深谷	38	11	5	2	16
2	西武台Ⅱ	34	10	4	4	8
3	武南	31	9	4	5	10
4	正智深谷	26	6	8	4	4
5	昌平Ⅱ	25	6	7	5	6
6	武蔵越生	23	7	2	9	-6
7	浦和学院	22	5	7	6	-3
8	聖望学園	22	6	4	8	-7
9	細田学園	14	3	5	10	-13
10	浦和南	10	2	4	12	-15

U-16 埼玉県サッカーリーグ2025埼玉S1リーグ

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	昌平	27	9	0	1	27
2	正智深谷	24	8	0	2	12
3	浦和レッズ	21	7	0	3	20
4	成徳深谷	18	6	0	4	8
5	西武台	17	5	2	3	12
6	RB大宮アルディージャ	16	5	1	4	4
7	武南	13	4	1	5	1
8	聖望学園	12	3	3	4	-9
9	細田学園	8	2	2	6	-4
10	花咲徳栄	3	1	0	9	-36
11	武蔵越生	1	0	1	9	-35

第104回全国高校サッカー選手権大会埼玉県大会

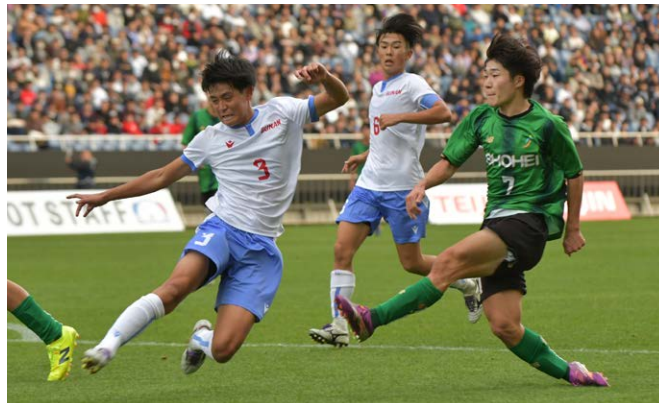
10月12日～11月16日 埼玉スタジアム2002他



※優勝した昌平高校は全国高校選手権に出場



優勝 昌平



決勝 昌平 vs 武南

3種

高円宮杯 JFA U-15 サッカーリーグ2025埼玉 第18回埼玉県ユース(U-15)サッカーリーグ1部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	クマガヤ	48	15	3	0	59
2	アレグレ	37	11	4	3	27
3	三郷Jr	32	9	5	4	21
4	武南Jr	29	9	2	7	17
5	ゼブラ	28	8	4	6	7
6	ペレーニア	26	8	2	8	1
7	1FC	23	7	2	9	15
8	コルージャ	20	5	5	8	-5
9	プレジール	12	3	3	12	-9
10	ファルカオ	0	0	0	18	-133

2026埼玉県ユース(U-15)サッカーリーグ2部参入戦

12月6日 県内各地

- FELEZA 4-0 越谷千間台中
- 大宮西カリオカ 6-0 本庄南中
- FC狭山 0-1 聖望学園中
- 大宮FC 13-0 久喜太東中
- 上尾SC 1-2 川口西中
- セジニョ 16-0 所沢美原中
- プリジャール 3-1 西武台新座中
- 草加ジュニア 1-0 さいたま尾間木中

高円宮杯 JFA 第37回全日本U-15サッカー選手権大会 埼玉県予選

8月30日～10月31日 県内各地

●代表決定戦

- 第1代表 C.A.アレグレ 3-0 聖望学園中
- 第2代表 三郷Jr 3-1 さいたま南浦和中
- 第3代表 東松山ペレーニア 1-0 レジエント熊谷
- 第4代表 FCコルージャ 2-1 FC KILONGA
- 第5代表 武南Jr 1-1 TODA GRAMADO (4PK3)
- 第6代表 成立ゼブラ 1-4 坂戸ディプロマツ
- 第7代表 プレジールSC 2-0 東春72
- 第8代表 1FC川越水上公園 3-1 FCセジニョ岩槻

※各代表と関東リーグ1部(5位以下)と2部全チームが関東大会に出場

第14回埼玉ユース(U-13)サッカーリーグ

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	GRANDE	16	5	1	2	6
2	武南Jr	16	5	1	2	6
3	三郷Jr	14	4	2	2	2
4	聖望学園中	13	4	1	3	-1
5	1FC	12	3	3	2	-1
6	ディプロマツツ	11	3	2	3	1
7	ペレーニア	10	2	4	2	2
8	アレグレ	4	1	1	6	-8
9	プレジール	3	0	3	5	-7

※優勝はGRANDE FC

中体連

令和7年度新人体育大会兼第38回県民総合スポーツ大会

11月6日～16日 埼玉スタジアム2002他

チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
開智未来	0	0	0	0	0
加須平成	2	1	0	0	2
大利根	0	0	0	0	0
越谷千間台	6	3	0	0	6
鴻巣南・西	0	0	0	0	0
さいたま原山	1	0	1	0	1
さいたま大宮北・南	2	1	0	0	2
埼玉朝鮮	0	0	0	0	0
西武台新座	8	4	0	0	8
上尾大谷	1	0	1	0	1
さいたま尾間木	3	1	1	0	3
聖望学園	14	7	0	0	14
所沢狭山ヶ丘	4	2	0	0	4
川越西	0	0	0	0	0
さいたま宮原	3	1	1	0	3
さいたま南浦和	6	3	0	0	6
杉戸南	0	0	0	0	0
東松山南	0	0	0	0	0
川口戸塚西	1	0	1	0	1

※優勝は聖望学園中学校



優勝 聖望学園



準優勝 さいたま尾間木



決勝 聖望学園 vs さいたま尾間木

クラブ

第35回埼玉ユース(U-15)サッカー選手権大会

10月5日～11月30日 埼玉スタジアム第3グラウンド他

チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
GRANDE	1	0	1	0	1
ペレーニア	2	1	0	0	2
三郷Jr	1	0	1	0	1
JOGADOR	0	0	0	0	0
セジニョ	5	2	1	0	5
武南Jr	4	2	0	0	4
GRAMADO	1	0	1	0	1
アルディージャ	3	1	1	0	3
クラブ与野	2	1	0	0	2
アレグレ	1	0	1	0	1
コルージャ	5	2	1	0	5
FC深谷	1	0	1	0	1
1FC	4	2	0	0	4
レッズ	4	2	0	0	4
ディプロ	1	0	1	0	1
アスミ	9	4	1	0	9

※優勝はRB大宮アルディージャU15

第35回埼玉ユース(U-14)サッカー選手権大会

グループA	勝点	勝	引分	負	得失点差
1 ペレーニア	18	6	0	1	17
2 FC深谷	18	6	0	1	14
3 見沼FC	13	4	1	2	1

グループB	勝点	勝	引分	負	得失点差
1 武南Jr	16	5	1	1	22
2 ゼブラ	15	5	0	2	16
3 カムイ	15	5	0	2	10

グループC	勝点	勝	引分	負	得失点差
1 草加Jr	16	5	1	1	8
2 コルージャ	14	4	2	1	5
3 ソルース	12	3	3	1	6

グループD	勝点	勝	引分	負	得失点差
1 クマガヤ	16	5	1	1	10
2 三郷Jr	16	5	1	1	5
3 カリオカ	14	4	2	1	4

グループE	勝点	勝	引分	負	得失点差
1 レジェンド	18	6	0	1	15
2 東春72	16	5	1	1	17
3 コンソルテ	16	5	1	1	15

グループF	勝点	勝	引分	負	得失点差
1 Gois	19	6	1	0	24
2 セジニョ	16	5	1	1	20
3 ファルカオ	13	4	1	2	3

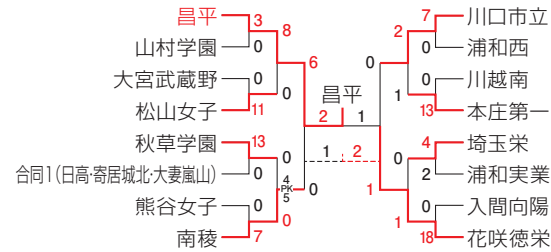
グループG	勝点	勝	引分	負	得失点差
1 L-BLOOM	16	5	1	1	6
2 越谷FC	15	5	0	2	12
3 JUBOL	14	4	2	1	10

グループH	勝点	勝	引分	負	得失点差
1 大宮FC	17	5	2	0	18
2 エステレーラ	16	5	1	1	13
3 アヴェントゥーラ	14	4	2	1	13

グループI	勝点	勝	引分	負	得失点差
1 リッターU	24	8	0	0	37
2 HAN	15	5	0	1	11
3 ネクサス	10	3	1	2	0

令和7年埼玉県高等学校女子サッカー選手権大会 兼
全日本高等学校女子サッカー選手権大会県予選

9月20日～10月13日 熊谷スポーツ文化公園補助陸上競技場他



※優勝した昌平は2連覇。本大会に出場



決勝 昌平 vs 花咲徳栄

2025年度第21回埼玉県女子U-15リーグサッカー大会 1部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	1FC川越水上公園メニナU15	25	8	1	1	24
2	クラブ与野レディース	22	7	1	2	34
3	GRAMADO FC TOKINAN	21	6	3	1	17
4	戸塚FCガールズU15	8	2	2	6	-6
5	FCフェミニノ川越	7	2	1	7	-23
6	Bruder SV Frauen	3	1	0	9	-46

2025年度第21回埼玉県女子U-15リーグサッカー大会(入替戦)

11月29日 戸田市惣右衛門サッカー場

FCフェミニノ川越 0-1 FCスペアール toda U15
(1部5位) (2部2位)

※ FCフェミニノ川越は2部に降格、FCスペアール toda U15は1部に昇格

シニア

2025年度埼玉県O-40サッカーリーグ 1部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	FC.西武台	29	9	2	0	20
2	SOL TODA	28	9	1	1	12
3	川口SC	23	7	2	2	10
4	セレソン所沢	22	7	1	3	9
5	ラホージャ	18	5	3	3	8
6	STR三郷	18	6	0	5	4
7	クマガヤSC	12	3	3	5	-5
8	SxS越谷	12	3	3	5	-9
9	VAMOS鳩山	10	2	4	5	-8
10	東春	9	3	0	8	-13
11	ガルサ越谷	5	1	2	8	-12
12	越谷FC	1	0	1	10	-16

2025年度埼玉県O-50サッカーリーグ 1部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	西武台	31	10	1	0	27
2	クマガヤ	22	6	4	1	12
3	FC浦和	21	6	3	2	8
4	越谷	20	6	2	3	14
5	新明	17	5	2	4	-6
6	F川越	15	4	3	4	-5
7	所沢	14	4	2	5	-2
8	東松山OP	12	3	3	5	-6
9	上尾	10	2	4	5	-6
10	SOL TODA	10	2	4	5	-10
11	川口	9	2	3	6	-8
12	パルス	1	0	1	10	-18

2025年度埼玉県O-60サッカーリーグ

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	FC浦和	42	14	0	0	59
2	パルス	35	11	2	1	31
3	BTS-C	31	10	1	3	14
4	さいたま倶楽部	27	9	0	5	12
5	春越	24	7	3	4	3
6	ボラリス	20	6	2	6	4
7	FSC	19	5	4	5	-2
8	新明SC	19	5	4	5	-3
9	県央レジェンド	18	5	3	6	-6
10	浦和GP	15	4	3	7	-18
11	BTS	13	3	4	7	-19
12	ベアーズ	11	3	2	9	-14
13	サウスフレンズ	11	3	2	9	-24
14	FC OKT	7	2	1	11	-13
15	比企FC	6	1	3	10	-24

2025年度埼玉県O-65サッカーリーグ

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
グループA	1 エルマノス65	26	7	5	0	13
	2 チームあらかわ	19	5	4	3	2
グループB	3 シリウス	20	5	5	2	6
	4 SEフレンズ	12	2	6	4	-3
グループC	5 FC DREAM	9	2	3	7	-2
	6 トライアングルス	9	2	3	7	-16

2025年度埼玉県O-70サッカーリーグ

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	PTK	34	11	1	0	17
2	Gファイター	16	4	4	4	0
3	FFC	15	4	3	5	2
4	ゼルコバ	2	0	2	10	-19

2025年度埼玉県O-75サッカーリーグ

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	プリムラ	23	6	5	1	9
2	GPエンペラー	22	6	4	2	9
3	シルバースター	11	2	5	5	-5
4	ペレウス	6	0	6	6	-13

大学

JR東日本カップ2025第99回関東大学サッカーリーグ戦 1部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失差
12	東京国際大学	19	5	4	13	-17

※東京国際大学は2部に降格

JR東日本カップ2025第99回関東大学サッカーリーグ戦 3部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
2	城西大学	40	12	4	6	18
5	共栄大学	34	10	4	8	4

※城西大学は2部に昇格

2025年度第58回関東大学サッカー大会 (関東大学サッカーリーグ[3部] 参入戦)

11月1日~29日 関東各所

第1節 大東文化大学 2-2 平成国際大学

第2節 桜美林大学 0-1 平成国際大学

第3節 平成国際大学 0-1 上武大学

第4節 平成国際大学 0-1 帝京大学

第5節 平成国際大学 3-3 城西国際大学

※平成国際大学は5位。1位の上武大学は関東3部に昇格

2025年度関東大学サッカーリーグ Norte 1部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	平成国際大学	35	10	5	3	19
3	尚美学園大学	33	9	5	4	20
4	埼玉工業大学	31	9	4	5	2
5	文教大学	22	5	7	6	-1
8	駿河台大学	19	4	7	5	1
9	埼玉大学	14	4	2	12	-18

※優勝した平成国際大学は関東大学サッカー大会に出場

2025年度関東大学サッカーリーグ Norte 2部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	東洋大学(川越)	49	16	1	1	57
2	獨協大学	46	15	1	2	64
4	日本薬科大学	30	9	3	6	5
6	西武文理大学	24	7	3	8	-12

2種

高円宮杯JFA U-18 サッカープレミアリーグ 2025 EAST

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
10	昌平高校	25	7	4	11	-11
11	浦和レッズユース	19	5	4	13	-17

※浦和レッズユースはプリンス関東1部に降格

高円宮杯JFA U-18 サッカープリンスリーグ 2025 関東1部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失差
3	RB大宮アルディージャU18	32	9	5	4	10

※3位のRB大宮はプレミアリーグプレーオフに出場

高円宮杯JFA U-18 サッカープリンスリーグ 2025 関東2部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失差
5	西武台高校	29	9	2	7	16

高円宮杯JFA U-18 サッカープリンスリーグ 2025 関東 supported by G-Vinculo・2部リーグ参入戦

12月20日~24日 ト伝の郷運動公園

1回戦 常磐高校 0-1 東京成徳深谷高校

参入決定戦

FC町田ゼルビアユース 4-2 東京成徳深谷高校

※日本大学藤沢高校とFC町田ゼルビアユースが昇格



参入決定戦 成徳深谷 vs 町田ゼルビア



1回戦 成徳深谷 vs 常磐

令和7年度第104回全国高等学校サッカー選手権大会

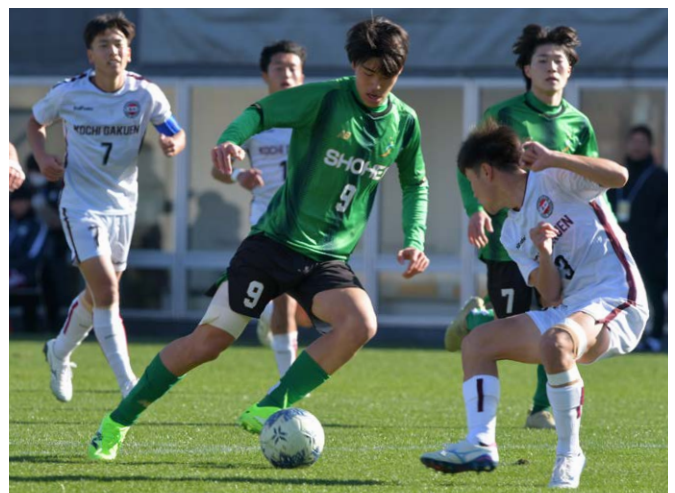
12月29日~1月12日 国立競技場他

2回戦 昌平高校 4-0 高知高校

3回戦 帝京長岡高校 1-0 昌平高校



3回戦 昌平 vs 帝京長岡



2回戦 昌平 vs 高知

3種

高円宮杯JFA第37回全日本U-15サッカー選手権大会関東大会

11月8日~16日 関東各地

●Aブロック

- 1 回戦 FC CORUJA 2-3 湘南ベルマーレU-15
 プレジール SC 1-3 湘南ベルマーレU-15EAST
 GRANDE FC 2-1 柏レイソル A.A.TOR'82
- 2 回戦 GRANDE FC 0-5 横浜 FC ジュニアユース

●Bブロック

- 1 回戦 RB 大宮アルディージャU15 1-0 ジェフユナイテッド市原・千葉U-15コラソ
 1FC 川越水上公園 0-1 横浜 F・マリノス JY 追浜
 FC 東京 U-15 深川 4-0 武南ジュニアユース
 栃木 SC U-15 1-1 A.C. アスミジュニアユース (4PK5)
 クマガヤ SC 3-0 FC VALON ジュニアユース
- 2 回戦 RB 大宮アルディージャU15 3-1 鹿島アントラーズノルテ
 FC 東京 U-15 深川 2-0 A.C. アスミジュニアユース
 クマガヤ SC 1-2 鹿島アントラーズジュニアユース
- 3 回戦 RB 大宮アルディージャU15 1-0 ワセダクラブ Forza'02

代表決定戦

RB 大宮アルディージャU15 2-0 FC 東京 U-15 深川

※ RB 大宮アルディージャU15 が本大会出場

●Dブロック

- 1 回戦 柏レイソルU-15 5-0 三郷 Jr Youth FC
 東松山ベレーニア 0-3 クラブ与野
 坂戸ディプロマツ 3-0 ザスパクサツ群馬U-15
 前橋 FC 1-0 CA アレグレ
- 2 回戦 カシマアカデミー Jry 0-4 クラブ与野
 ジェフユナイテッド市原・千葉U-15 0-0 坂戸ディプロマツ (2PK4)
- 3 回戦 柏レイソルU-15 0-2 クラブ与野
 坂戸ディプロマツ 0-7 FC 多摩 JY
- 代表決定戦 クラブ与野 1-4 FC 多摩 JY

高円宮杯JFA第37回全日本U-15サッカー選手権大会

12月13日~27日 味の素フィールド西が丘他

- 1 回戦 青森山田中学校 0-1 浦和レッズジュニアユース
 FC フォーリクラッセ仙台 2-3 RB 大宮アルディージャU15
 セレッソ大阪 西U-15 2-0 FC ラヴィータ
- 2 回戦 浦和レッズジュニアユース 1-2 ソレッシン熊本
 ファジアーノ岡山U-15 2-2 RB 大宮アルディージャU15 (3PK4)
- 準々決勝 RB 大宮アルディージャU15 1-0 アビスパ福岡U-15
 準決勝 名古屋グランパスU-15 3-1 RB 大宮アルディージャU15
- ※優勝は名古屋グランパスU-15

4種

2025フジパンCUP第49回関東U-12サッカー大会 in 群馬

9月6日、7日 群馬県コーエィ前橋フットボールセンター

●Bブロック

FC REGISTA TSUKUBA 1-0 RB 大宮アルディージャU12
 柏レイソル A.A.TOR'82 0-1 RB 大宮アルディージャU12

※ RB 大宮アルディージャU12 はブロック3位で3位トーナメントへ

●Dブロック

川崎フロンターレU-12 5-1 FC アビリスタ
 水戸ホーリーホックジュニア 1-3 FC アビリスタ

※ FC アビリスタはブロック2位で2位トーナメントへ

●Eブロック

FC 大泉学園 1-0 レジスタ FC
 レジスタ FC 3-1 東住吉サッカークラブ

※レジスタ FC はブロック2位で2位トーナメントへ

※1位トーナメント優勝はパディ SC 江東

JFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会

12月26日~29日 白波スタジアム他

●1次ラウンド・グループH

レジスタ FC 7-0 武生 FC・ブルーキッズ
 鳥取 KFC 0-4 レジスタ FC
 長崎ドリーム FC 0-2 レジスタ FC

※レジスタ FC はグループ1位で決勝ラウンドへ

●決勝ラウンド

ラウンド16 レジスタ FC 10-0 ジョガボーラ柏崎 FC
 準々決勝 レジスタ FC 1-1 川崎フロンターレ (2PK3)

※優勝はサガン鳥栖

女子

皇后杯JFA第47回全日本女子サッカー選手権大会

11月8日~1月1日 国立競技場他

2 回戦

三菱重工浦和レッズレディース 4-1 スフィーダ世田谷
 RB 大宮アルディージャ WOMEN 0-0 ディオッサ出雲 (6PK7)
 ちふれ AS エルフエン埼玉 0-1 JFA アカデミー福島

3 回戦

三菱重工浦和レッズレディース 1-2 伊賀 FC くノ一三重

第47回関東女子サッカー選手権大会 兼

皇后杯JFA第47回全日本女子サッカー選手権大会関東予選

8月30日~9月14日 神奈川県内各地

1 回戦 河内 SC ジュベニール 1-3 RB 大宮アルディージャ WOMEN U18
 2 回戦

VONDS 市原 FC レディース 2-0 RB 大宮アルディージャ WOMEN U18
 日テレ・東京ヴェルディメニーナ 2-0 三菱重工浦和レッズレディースユース
 神奈川大学女子サッカー部 1-0 東洋大学体育会サッカー部女子部
 山梨学院大学サッカー部女子 3-2 東京国際大学女子サッカー部

第39回関東大学女子サッカーリーグ戦 1部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	東洋大学	50	16	2	4	32
4	東京国際大学	40	12	4	6	17
10	大東文化大学	11	3	2	17	-45

第39回関東大学女子サッカーリーグ戦 2部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
5	尚美学園大学	31	10	1	7	12
8	武蔵丘短期大学	13	4	1	13	-35

第39回関東大学女子サッカーリーグ戦 3部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	城西大学	23	7	2	1	12
2	文教大学	18	5	3	2	23

※優勝した城西大学は2部に昇格

第39回関東大学女子サッカーリーグ

11月22日 上位チームホーム

・1部2部入れ替え戦

大東文化大学 (1部10位) 0-1 順天堂大学 (2部3位)

※大東文化大学は2部に降格

・2部3部入れ替え戦

上武大学 (2部9位) 3-2 文教大学 (3部2位)

※文教大学は3部に残留

第34回全日本大学女子サッカー選手権大会

12月23日~1月6日 味の素フィールド西が丘他

2 回戦 東洋大学 1-1 吉備国際大学 (4PK3)

準々決勝 東洋大学 1-1 山梨学院大学 (2PK4)

第29回関東女子ユース(U-18)サッカー選手権大会 兼 JFA第29回全日本U-18女子サッカー選手権大会関東予選

9月20日～27日 ひたちなか地区多目的広場

1 回戦

横須賀シーガルズ JOY 0-0 三菱重工浦和レッズレディースユース (1PK3)

RB 大宮アルディージャ WOMEN U18 8-0 ヴェルフェ矢板レディース

2 回戦

日テレ・東京ヴェルディメニーナ 3-2 三菱重工浦和レッズレディースユース

日体大 SMG 横浜 U18 0-9 RB 大宮アルディージャ WOMEN U18

準決勝

RB 大宮アルディージャ WOMEN U18 2-2 ノジマステラ神奈川相模原ドゥエ (5PK4)

決勝

日テレ・東京ヴェルディメニーナ 5-0 RB 大宮アルディージャ WOMEN U18

●5位決定戦

1 回戦

三菱重工浦和レッズレディースユース 3-2 湘南ベルマーレウィメン

決定戦

三菱重工浦和レッズレディースユース 9-0 日体大 SMG 横浜 U18

※優勝は日テレ・東京ヴェルディメニーナ。上位5チームは本大会へ出場する

JFA第29回全日本U-18女子サッカー選手権大会

1月3日～10日 J-GREEN 堺

1 回戦

RB 大宮アルディージャ WOMEN U18 4-0 ディオッサ出雲 FC ユース

三菱重工浦和レッズレディースユース 4-1 愛媛 FCレディース MIKAN

準々決勝

日テレ・東京ヴェルディメニーナ 2-0 RB 大宮アルディージャ WOMEN U18

INAC 神戸レオンチーナ 2-2 三菱重工浦和レッズレディースユース (4PK5)

準決勝

三菱重工浦和レッズレディースユース 1-2 マイナビ仙台レディースユース

関東U-18女子サッカーリーグ都県代表参入戦

12月20日、21日 ひたちなか地区多目的広場

●Bグループ

1 回戦 川口市立高校 1-2 明秀学園日立高校

※湘南学院高校とスフィード世田谷 FC ユースが昇格

第34回関東高等学校女子サッカー選手権大会

11月2日～9日 フードリエサッカーフィールド青木他

1 回戦 東京都立東大和高等学校 0-2 川口市立高等学校

花咲徳栄高等学校 0-0 明秀学園日立高等学校 (3PK2)

2 回戦 千葉県立幕張総合高等学校 0-2 川口市立高等学校

高崎健康福祉大学高崎高等学校 1-0 花咲徳栄高等学校

準決勝 川口市立高等学校 2-1 神奈川県立藤沢清流高等学校

決勝 川口市立高等学校 0-1 流通経済大学付属柏高等学校

※川口市立高等学校は準優勝

第34回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

12月29日～1月11日 神戸総合運動公園ユニバー記念競技場他

1 回戦 昌平高校 3-1 京都精華高校

2 回戦 昌平高校 1-1 高川学園 (5PK3)

3 回戦 昌平高校 1-2 聖和学園 (宮城県)

JFA U-15女子サッカーリーグ 2025 関東 1部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失点差
1	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース	36	12	0	2	30
6	INAC 白岡SCレディース	17	5	2	7	-10
8	ちふれASエルフェン埼玉U-15	3	0	3	11	-28

JFA U-15女子サッカーリーグ 2025 関東 2部

順位	チーム	勝点	勝	引分	負	得失差
4	RB大宮アルディージャ WOMEN U15	23	7	2	5	25

第30回関東女子ユース(U-15)サッカー選手権大会 兼 高円宮妃杯 JFA第30回全日本U-15女子サッカー選手権大会関東予選

10月18日～11月9日 フジビレッジ他

1 回戦

フォルトゥナ Vogel U-15 0-4 クラブ与野レディース

RB 大宮アルディージャ WOMEN U15 0-4 日テレ・東京ヴェルディメニーナ

2 回戦

ザスパ群馬レディース U-15 0-2 ちふれASエルフェン埼玉マリU-15

INAC 千葉 CRAVO FC 3-0 クラブ与野レディース

INAC 白岡 SCレディース 9-0 つくば FCレディースユース

準々決勝

ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15 4-0 ちふれASエルフェン埼玉マリU-15

INAC 白岡 SCレディース 2-1 日テレ・東京ヴェルディメニーナ

敗者復活 (第7、8代表決定戦)

ちふれASエルフェン埼玉マリU-15 0-2 小美玉フットボールアカデミー

※優勝はジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15。INAC 白岡 SCレディースは4位となり関東第6代表として本大会へ出場する。なお、JFA U-15女子サッカーリーグ2025関東1部第7節終了時点において、1位の三菱重工浦和レッズレディースジュニアユースは予選免除となり、関東第1代表として本大会に出場する

高円宮妃杯JFA第30回全日本U-15女子サッカー選手権大会

12月6日～27日 味の素フィールド西が丘他

1 回戦

三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース 2-0 Fragrant 熊本

INAC 白岡 SCレディース 0-1 常葉大学附属橋中学校女子サッカー部

2 回戦

三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース 4-3 常葉大学附属橋中学校女子サッカー部

準々決勝

三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース 6-1 小美玉フットボールアカデミー

準決勝

三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース 2-1 JFAアカデミー福島

決勝

三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース 2-1 INAC 神戸テゾーロ

※優勝は三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース

第37回関東レディースサッカー大会 兼

JFA第37回全日本0-30女子サッカー大会関東地区予選大会

11月15日、16日 コーエィ前橋フットボールセンター

1 回戦 ジェラルド・すばる・伊勢崎 0-7 上福岡女子 SC

FC 楓昇 Lifelong 4-0 FOOT CRISADERS

2 回戦 上福岡女子 SC 4-1 FC VIDA Feliz

FC 楓昇 Lifelong 0-1 小平サッカークラブ

準々決勝 SOCIOS FC VENGA 3-2 上福岡女子 SC

3位決定戦 上福岡女子 SC 3-1 横須賀シーガルズ FC

※優勝は SOCIOS FC VENGA (東京都第1代表)。上福岡女子 SC を含む上位3チームが本大会に出場する

シニア

日本スポーツマスターズ 2025 愛媛大会 (サッカー競技)

9月20日～23日 北条スポーツセンター・陸上競技場他

●1次ラウンド・グループ B

三宅ティグザ (福岡県) 1-1 与野蹴魂会 (5PK4)

柿崎 FC シニア (新潟県) 0-5 与野蹴魂会

三重O-35マスターズ 1-0 与野蹴魂会

※与野蹴魂会はグループ3位。優勝は神奈川県選抜。

KTFA第19回関東O-40サッカー大会

10月18日、19日 押原公園天然芝・人工芝グラウンド

●予選リーグ・B組

FC. 西武台 0-0 FC 船橋

FC. 西武台 1-3 ブラックマンバ (群馬県)

FC. 西武台 2-3 BOLAMISC 宇都宮

※FC. 西武台はグループ4位

●順位決定戦

nanaho ユナイテッド (山梨県) 2-1 FC. 西武台

※優勝は西湘 Wings FC。

KTFA 第13回関東O-70サッカー大会

10月4日、5日 SFA フットボールセンター

●予選リーグB組

埼玉シニア 70 1 - 0 山梨 70SC
 千葉四十雀 SC 2 - 1 埼玉シニア 70
 神奈川ターコイズ 70 0 - 2 埼玉シニア 70

※埼玉シニア 70はB組2位

●3・4位決定戦

群馬シニア選抜 0 - 4 埼玉シニア 70

※優勝は栃木県 O-70 選抜

KTFA 第20回関東O-60サッカー大会

10月4日、5日 コーエイ前橋フットボールセンター

●予選リーグA組

PET60(東京都) 2 - 0 浦和グランパワーズ 60
 浦和グランパワーズ 60 0 - 0 函南 legacy
 山梨シニア 0 - 2 浦和グランパワーズ 60

※浦和グランパワーズ60はA組2位

●3位決定戦

浦和グランパワーズ 60 1 - 1 千葉四十雀 SC (3PK2)

※優勝は PET60

第37回全国健康福祉祭ぎふ大会(ねんりんピック岐阜2025)

10月18日~20日 飛騨市古川ふれあい広場他

●Aブロック

置賜シニア・セバナル(山形県) 0 - 2 埼玉シニア
 埼玉シニア 1 - 1 ブラック・ダイヤモンド 60(山口県)
 埼玉シニア 2 - 0 三重蹴友(三重県)

※埼玉シニアはブロック1位

●Lブロック

京都シニア 60 1 - 0 さいたま市ねんりんピック FC
 福岡県 0 - 3 さいたま市ねんりんピック FC

さいたま市ねんりんピック FC 1 - 1 藤枝フットボールクラブ(静岡県)

※さいたま市ねんりんピック FCはブロック2位

フットサル

JFA 第31回全日本U-15フットサル選手権大会関東大会

12月6日、7日 アサテススポーツパークアリーナ 1

●グループB

if Levante Futbol Clube U-15 Sol 3 - 1 大豆戸 FC

if Levante Futbol Clube U-15 Sol 2 - 3 リガール東京ネクスト

※ if Levante Futbol Clube U-15 Sol はグループ2位

JFA 第16回全日本U-15女子フットサル選手権大会関東大会

12月6日、7日 アサテススポーツパークアリーナ 1

1回戦

INAC 白岡 SC レディース 2 - 3 栃木 SC レディース

インフォメーション

県フットサル連盟のホームページより～

SFA フットボールセンター クリーンプロジェクト活動報告

2025年8月27日に埼玉県立川口工業高校の部活動「掃除部」がSFAフットボールセンター体育館のクリーニングを行ってくれました。

当連盟ではSFAフットボールセンターの体育館を利用させていただくことが多く、折を見て体育館の清掃を模索しておりました。そんな中、川口工業高校に在籍しており、県連盟に所属している栗原(くわはら)雄太先生のご厚意により、この素晴らしいプロジェクトを進めるに至りました。川口工業高校の「掃除部」は全国大会での優勝実績(2024年度スポGOMI 甲子園全国大会優勝)があり、今回は専門業者指導のもと、猛暑での活動に専念していただきました。

このような繋がりを今後も大切に、『心身の健全な発達と社会の発展に貢献する』JFAの理念実現に努めて参ります。

最後に、猛暑の中、協力していただいた川口工業高校掃除部の皆様に対し、連盟スタッフ一同、心より感謝申し上げます。



編集後記

「レフェリー育成の現場から」と題して、今号から連載記事を掲載しています。当然のことながら、選手のプレーを支えるレフェリーの存在無くして、競技は成りたちません。しかし各種別において審判員の不足や割り当てのご苦労など、現場で耳にする課題が多いのも実情です。審判員育成の現場をレポートすることで、ます

は現場の声をお届けしたいと思います。

2026年、いよいよW杯開幕、そしてJリーグは「秋春制」移行の元年を迎えます。サッカーに注目度が高まる一年。怪我や体調には十分留意され、サッカーを楽しんでください。(藤田)